

第1学年 国語 おはなしやさんごっこ

本時の目標	話の順番を組み立てて、友だちや教師の前でスピーチができる。 興味を持って友だちのスピーチを聞くことができる。
本時で育成する 情報活用能力	経験や考えたことを順序立てることができる。 順番を考えてわかりやすく相手に伝えることができる。

☆推奨時間 1時間

準備物

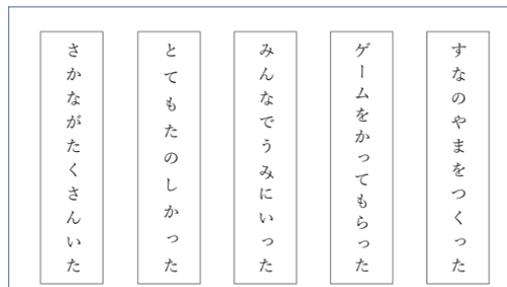
短冊、台紙、テープ

学習活動	指導上の留意点
<p>○導入</p> <hr/> <p>1. 夏休みの出来事を振り返る。</p> <p>2. 学習内容（「おはなしやさん」になって夏休みの出来事を友だちに伝えること）と、授業の流れを確認する。</p>	<hr/> <p>・学習内容の確認のとき、短冊の例を提示し、児童の到達点を示すとよい。</p>
<p>○展開</p> <hr/> <p>1. 夏休みにあったことを思い出し、友だちに伝えたい出来事をノートに書き出す。</p> <p>2. その中からもっとも友だちに話したい出来事（メインテーマ 例：海水浴、花火大会など）を選ぶ。</p> <p>3. 短冊と台紙を配布する。</p>	<hr/> <p>・先生の夏休みの思い出を例として提示する。 例は箇条書きで書く。</p> <p><u>先生の例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプをした。 ・昆虫採集をした。 <p>・一人につき、台紙1枚、短冊8枚を配布する。</p>

4. メインテーマのなかで感じたこと、起こったこと、一緒だった人など、友だちに話したい内容を短冊に書き出していく。

- ・短冊には1枚に1つのことしか書かないように説明する。
- ・どう書いたらいいか迷っている児童がいた場合は、「誰と一緒にいったかな?」や「その時どう思った?」などアドバイスをを行う。

短冊の例

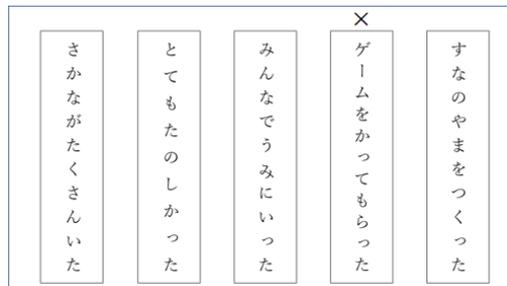


5. 話したい一番大事なことが伝わるようにメインテーマとは異なる内容（余計な情報）の短冊がないか確認を行う。メインテーマと関係ない短冊があった場合は、机の隅に置く。

- ・この時点でメインテーマと関係ない短冊が残っていることに気が付かなくても、6. の作業で、気がつくこともある。そのため、ここで見落としがあってもよい。

- ・短冊の中に違うテーマはないか?
- ・その時いなかった人が入っていないか?

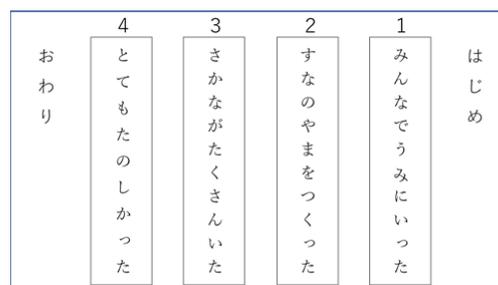
メインテーマに合わない短冊は除く



6. 台紙の上に短冊を時系列に並べ、お話を作る。その際、メインテーマと関係のない短冊があった場合には省く。

- ・時系列に並べる過程でメインテーマと関係ない短冊が残っていることに気が付くことがある。その場合はここで修正する。

7. 台紙に「はじめ」と「おわり」、短冊の数字の番号を振る。



8. 2人1組になり、作ったお話を相手に伝える。お話の内容が相手に伝わったかを確認する。

2人1組

9. 相手に伝わらなかった場合は、伝わりにくかった箇所や理由を聞き、短冊の時系列や内容を変えてみたり、短冊を省いたりしてみる。

2人1組

10. 相手に伝わったことを確認したら、短冊を台紙にテープで止め完成させる。

単独

11. みんなの前で発表する。
発表する児童は「おはなしやさん」としての役割（お仕事）が与られ、真剣に発表する。

・クラス人数が多い場合や、全員が一人ずつ発表する場合は2時間目を利用する。

・「おはなしやさん」のスピーチでは「声の大きさ」「話す速さ」「内容が伝わったか」について教師から児童へフィードバックする。

ここで、スピーチを聴いた児童に「この話はよくわかりましたか」と問いかけをする。

○まとめ

1. 本時のまとめをする。

・本時はプログラミング的思考（論理的思考）の中で「順次処理」に関わる内容である。「順番通り並べる（処理）」というキーワードを伝えることが必要。

2. 友だちに自分の考えていることを伝えるためには、「順番通り」かつ「話したい一番大切なこと」を話すことが必要であることの確認をする。

・パソコンを使用したプログラミングの授業になると、「コンピューターに意図した命令を伝える（実行）」ことを児童に

文章として順序だてて書くことができるだけでなく、友だち・先生・両親との普段のコミュニケーションでも本時の内容が必要であることを確認する。

理解させる必要がある。言葉のコミュニケーションを通して「自分の意図した内容を的確に説明し、相手に理解してもらう」ことで、「順番通り」「明確に」というスキルを育てる準備になる。